

令和6年度 福井市の認定こども園、保育所等における質の向上のためのアクションプログラム vol. 3

No.605 東藤島こども園

カテゴリー		園での取り組み (具体的なアクション内容・それを実現するための具体的な方法・手段)	年度末達成度 (◎・○・△・×)	備考
Ⅰ 子どもの育ちを保障します	幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針等に基づき、福井の豊かな環境を生かした質の高い乳幼児の教育・保育を提供します	(1) 教育・保育要領に基づき、健やかな成長が図れるよう、乳幼児の教育・保育の計画を作成し、実践する。	(1) ◎	「環境を通して行う教育・保育の意義」について職員で共通理解し、計画を作成し実施した。
		(2) 安全の心得、危機管理マニュアル、ガイドライン等の読み合わせを行い、保育の振り返りを行う。	(2) ◎	マニュアルやガイドラインの読み合わせをし、定期的にチェックリストを活用し、振り返りを行った。
		(3) 保育カウンセラーやこども療育センター等の専門機関と連携し、発達の特性や支援方法を共通理解する。	(3) ◎	こども療育センターでの療育の様子を参観し、支援方法を職員と共通理解した。
		(4) チェック表をもとに園舎内外の安全管理を日常的に行い、環境及び衛生管理を徹底する。	(4) ◎	チェック表で安全点検を行い、不備はすぐに修繕を依頼するようにした。
	保育者等の専門性及び資質の向上を図ります	(5) 語り合いやみあいっこ等の園内研修を計画的に行い、教育・保育の質の向上を図る。	(5) ◎	語り合いやみあいっこ等の園内研修を12回実施し、保育の質の向上に努めた。
		(6) 園長会や園長連絡会、園長研修会に参加し、知り得た情報等を職員に周知徹底する。	(6) ◎	情報を紙面にまとめ、資料とともに配布し、終礼時に報告した。
		(7) 経験年数に応じた研修や公開保育への積極的な参加のための、計画的な研修体系を確立する。	(7) ◎	初任研、中堅研、園内リーダー養成研、主幹保育教諭特別講座等、経験年数に応じた研修を受講した。
Ⅱ 子育てライフを支援します	認定こども園、保育所等を利用する保護者への支援の充実を図ります	(8) 保育体験や個人懇談、日々の連絡帳等を通して情報交換を行い、子育ての悩みや不安解消に努める。	(8) ◎	未満児は保育体験、以上児は個人懇談、また全クラスでクラス懇談会を行い、保護者支援に努めた。
		(9) 就学に向けての情報共有や、ふれあい児・気になる子の個別計画に基づいた家庭との連携を推進する。	(9) ◎	就学に向けて家庭と連携を取りながら、移行支援を行うことができた。
	地域子育て家庭への支援の充実を図ります	(10) 園開放や園見学の受け入れを行い、園児と交流する場を設けたり、育児相談や情報提供を行ったりする。	(10) ◎	園開放時に家庭教育アドバイザーを2回招き、講座や育児相談の機会を設けることができた。
		(11) 一時預かりや途中入園を可能な範囲で受け入れ、地域の子育て家庭への支援に貢献する。	(11) ◎	一時預かりや途中入園を、積極的に受け入れることができた。
		(12) 育児の相談や援助の知識及び技術向上のための研修に参加する。	(12) ○	保護者支援の研修に参加し、育児相談の知識、技術の向上に努めた。伝達講習が難しかった。
Ⅲ 多様な連携と協働を進めます	子育て・子育て支援のネットワークの中で認定こども園、保育所等の役割を発揮します	(13) こども家庭センターでの健診や育児教室、育児相談会への参加を推進する。	(13) ◎	子育てに不安を抱えている保護者に、育児相談会への参加を進め、専門機関へ繋げることができた。
		(14) 主任児童委員に園行事への参加を呼び掛けたり、情報共有をしたりしながら連携・協働を進める。	(14) ◎	主任児童委員を夏祭りに招待し、連携・協働を進めることができた。
		(15) 園だより、学校だよりを発信し合い、職員同士が保育・授業参観、行事等で連携交流の機会が設ける。	(15) △	小学校教員による保育参観は実施できたが、小学校の授業参観は行えなかった。次年度、実施したい。
		(16) こども療育センターや通所施設との連携を強化し、取り組みを充実させる。	(16) ◎	通所施設の職員による訪問を継続して行い、情報交換をすることができた。
	地域の教育・保育機能を強化します	(17) 公民館、児童館に園だよりを発信し、公民館主催の行事や会議に積極的に参加する。	(17) ◎	公民館主催の行事に参加したり、園の花壇の整備に協力いただいたりしながら交流を深めることができた。
Ⅳ 子育て文化を育みます	子育てへの関心を高めます	(18) 小学校教諭の教育・保育体験や実習生を受け入れ、園で育んでいることを具体的に伝える。	(18) ◎	実習生を積極的に受け入れ、保育の楽しさを伝えるよう努めた。
		(19) 東藤島地区運営審議会、まちづくり協議会、家庭地域学校協議会等に参加し、地域へ園の取組みを発信する。	(19) ◎	園長が様々な会議に参加し、地域との連携を深めることができた。
	子育て文化につながる活動を広げます	(20) 栽培活動や自然体験、交通安全教室等の活動を通して地域の人々とふれあい、地域交流を推進する。	(20) ○	栽培活動等を通して、地域の人々との交流を図ってきた。次年度も、さらに交流を進められるようにする。
		(21) ふれあいサマーデーや地区文化祭の参加、作品展示等を行い、地域の人々に園の活動を発信する。	(21) ◎	地域の行事に積極的に参加し、園の活動を発信することができた。
Ⅴ 安心して子どもを生み育てる支援づくりを進めます	子ども・子育て関連3法に基づくこれからの乳幼児の教育・保育について研究を進めます	(22) 社会動向やこども園が求められる役割について情報収集し、職員に周知していく。	(22) △	外部研修で学んだことを伝達する機会を設けることが困難だったので、今後工夫していきたい。
		(23) これからの乳幼児の教育・保育について、研修や会議を通し学ぶ。	(23) ○	オンライン研修は、なるべく多くの職員が受講できるように工夫した。
	社会連帯による子育て支援の仕組みづくりを進めます	(24) アクションプログラムを共有し、それに基づいた活動計画案作成と実施及び評価を行う。	(24) ◎	正規職員全員が、アクションプログラムの研修に参加し、共通理解することができた。

《園での取り組み》 24のアクションから、取り組む内容(番号)と具体的な取組みを記載する。

《達成度》 ◎：当初計画していた目標を大きく上回り、優れた成果を上げた。 ○：計画どおりに取り組み、概ね目標を達成することができた。 △：不足する部分や問題があった。 ×：目標を達成することができなかった。

《備考》 達成度についての特記事項や次年度に引き継ぎたいことなどを記載する。ま